

——八月十五日 は 敗戦 記念 日 ！

再び戦争の惨禍が政府の行為によっ

て…

いつか来た道」では？——

◎ 八月十五日が来ました。五二年前、侵略戦争（太平洋戦争）を起こし、内外無数の人々の命を奪い、その結果無条件降伏した日です。愚かな戦争でした。

◎ それからすぐ、日本国憲法が制定され、国民の大多数は、国民権、基本的人権尊重、徹底した平和主義を喜び迎えました。「や」と、人間らしい生活ができる」と…。特に、第九条は、軍備を捨て、戦争をしない平和国家建設を誓いましたから、戦争に苦しめられてきた国民は、こぞって大歓迎しました。

◎ あれから五二年が過ぎました。目を見開いて見て下さい。今や、あなたの目の前に、日本は世界有数の軍事国家となり、防衛（軍事）予算は世界第二位となるという信じられないことが進んでいます。さらに、日米安保条約の再評価によって、戦争になった場合の準備（ガイドラインの見直し）が進められています。有事立法（戦争時における軍事優先を法律で定める）の国会提出が迫っています。AWACSの浜松基地配備も、戦争準備の一つに間違いないありません。

◎ 日本国民は「再び、政府の行為によって、戦争の惨禍が起こることのないように決意（憲法前文）」したのです。しかし、このまま進めば、気づいた頃には、身動きできない戦争体制の中に組み込まれるでしょう。

◎ 市民の皆さん、このままでは、子供や孫や曾孫の上に、戦争の惨禍がふりかかりかねません。それでよいのでしょうか。黙っていいのでしょうか。